

国土地理院数値標高モデルインポータの使用法

本プログラムは国土地理院様の基盤地図情報の数値標高モデルを ENVI へインポートする拡張機能です。数値標高モデルの 5m メッシュの 5A(レーザー測量)と 10m メッシュの 10B(地形図の等高線)に対応しています。データが格納されているフォルダを指定し、出力先とルート名を設定することでデータをモザイクして出力します。出力データ形式は GeoTIFF 形式です。

基盤地図情報 URL:

<https://fgd.gsi.go.jp/download/menu.php>

【注意】

本プログラムは独自に開発した無料の拡張機能となるため、正式サポート対象外のプログラムとなります。開発バージョンは ENVI5.7 です。

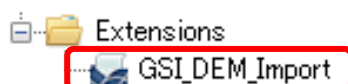
プログラムの設定方法

「GSI_DEM_Import.sav」というファイルが提供されますので、このファイルを ENVI インストールフォルダの「Extensions」ディレクトリに保存してください。デフォルトの ENVI インストールフォルダは、以下となります。

※xx はバージョンを表しています。

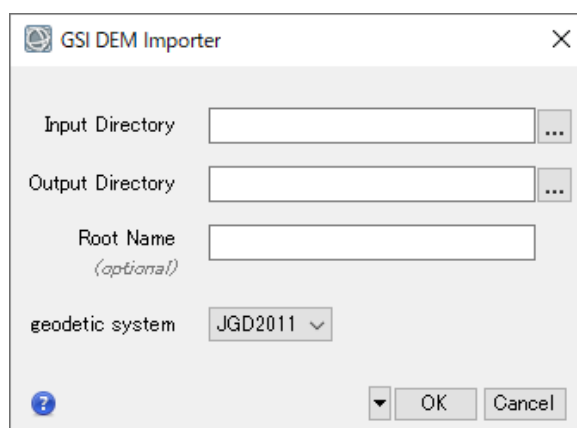
C:\Program Files\Harris\ENVIxx\extensions

ENVI を起動すると、ツールボックスの「Extensions」に「GSI_DEM_Import」というツールが追加されていれば、設定完了です。



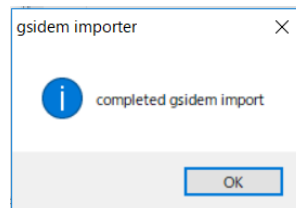
使用方法

1. ダウンロードした数値標高モデルのフォルダを解凍し、インポートする XML 形式のファイルと同じフォルダへ入れてください。対象ファイルを検索し処理を実施するため、他拡張子のファイルがあっても正しく動作します。
2. ENVI ツールボックス → 「GSI_DEM_Import」をダブルクリックしてツールを起動します。
3. パラメータ選択 UI が起動します。実行に必要な項目を設定し、OK ボタンを押下してツールを実行してください。



パラメータ名	説明
Input Directory	インポートする XML 形式のファイルを配置したフォルダを指定します。
Output Directory	結果の出力先フォルダを指定します。
Root Name	出力ファイルのルート名を設定します。未設定の場合には、自動的に「out」という値が設定されます。
Geodetic system	測地系として、JGD2011 または JGD2000 を選択することができます。数値標高モデルをダウンロードした時期に応じて適当なものを選択してください。

4. OK ボタンを押下すると、ツールが実行されます。最終結果は、読み込まれた数値標高モデルが 5m メッシュの場合には「ルート名_5m.tif」、10m メッシュの場合には「ルート名_10m.tif」のようになります。
5. 処理が終了すると、以下のダイアログが表示され、OK をクリックすると出力ファイルが ENVI のインターフェースに表示されます。



6. 本インポータでは数値標高モデルの値をそのままインポートしますので、海水面の標高値は国土地理院様が設定している「-9999.0」です。ENVI でカーソルバリエーションを確認すると No Data という表示になりますが、これは出力時に Data Ignore Value へ「-9999.0」を設定しているためです。

なお、出力先ディレクトリ配下に ENVITemp から始まるフォルダが作成されており、読み込まれた個々の XML ファイルに対応する中間生成物(ENVI 形式のファイル)はすべてそこに出力されています。不要な場合には、こちらは処理後に削除してください。



連絡先

NV5 Geospatial 株式会社 技術サポート: support_jp@NV5.com